



泥だらけになりながら田植えを体験する園児たち＝福井市種池町で(山田陽撮影)

泥だらけ 田植え元気よく

稲のわせ品種ハナエチゼンの田植えが県内で本格化する中、福井市種池町の水田では社中央第一・第二こども園の年長児40人が田植えを体験した。泥の感触に歓声を上げながら、丁寧に苗を植えていた。

食の大切さや農業の大変さを知ってもらおうと、こども園を運営する社会福祉法人やしろ中央会が地元農家の協力を得て開いた。

福井の園児

この日は青空が広がり、田植えにもってこいの天気。園児たちは田植えの方法について説明を受けた後、はだしで水田へ。6人組で木製の農機具を転がして目印をつけ、バランスを取りながら苗を植えていった。

ズボンまで泥だらけになりながらも元気いっぱい。佐々碧威ちゃん(5)は「田んぼの土ってぬるぬるしてせっけんみたい」と泥のついた手を珍しそうに眺めていた。今後、かかし作りにも取り組み、秋には収穫を体験して取れたての新米を味わう。

(金崎千花)